

民生病院委員会行政視察報告書

- 1 視察期間 自 平成17年8月23日
3日間
至 平成17年8月25日
- 2 視察都市 埼玉県和光市
山形県山形市
山形県東根市
- 3 参加者 早川委員長、山際副委員長、川崎委員、稲垣委員、河島委員
八木委員、川村委員、小木委員、元場委員
同行 石川社会福祉課長
随行 鈴木副主任
- 4 視察事項 (1) 市の概況について（3市）
(2) 総合福祉会館について（和光市）
(3) デイサービスセンターについて（山形市）
(4) 保健センターについて（山形市）
(5) 総合保健福祉施設について（東根市）
- 5 考察 次のとおり

◎和光市 人口：72,624人、面積：11.04km²(平成17年4月1日現在)

1 和光市総合福祉会館

和光市総合福祉会館（ゆめあい和光）は、お年寄りから障害のある方や子供までがふれ合える交流の場とすることを目的とした施設であり、高齢者福祉施設及び障害者福祉施設を軸に地域開放を考慮した複合施設である。構造規模は、鉄骨造3階建、延べ床面積約7,189m²、総工事費は約22億1,250万円となっている。

建設までの経過としては、平成3年より東京外環自動車道の蓋掛け部の上部を利用する検討会が始まり、13年には総合福祉会館建設の庁舎検討委員会が4回開催され、14年に地元自治会及び関係団体への説明会が14回開催され、市民からの要望を受け入れ本年4月にオープンをした。

この施設は高齢者施設と各種障害者（身体、知的、精神）施設、コミュニティー施設から構成され、1階には身体障害者デイサービスセンター、知的障害者授産施設、総合事務所及び喫茶コーナーが、2階には高齢者福祉センター、精神障害者小規模作業所、障害者地域生活支援センター、3階には地域住民が利用できる図書・情報コーナーや少人数から100人超の会議にも対応できる会議室、軽音楽やバンド演奏が可能な防音室、また、地域の子供たちが自由に遊べるプレイルーム等を設けている。

また、屋上緑化や雨水などの再利用、天然ガスコージェネレーションや太陽光発電等のエコ設備の導入を図るなど、自然エネルギーを積極的に活用することにより消費エネルギーを抑制し、環境への負荷を減らすように設計されている。

管理運営については、指定管理者制度を導入しNPO法人、社会福祉協議会、家族会などが運営にあたり、利用者に対し満足度の高いサービスが提供できるように努めている。

総合福祉会館は地域福祉の拠点であると同時に、各種障害者との複合施設であり、それぞれが目的を持った運営がされており、身体・知的・精神の3種の障害者施設が、一つの建物に集まっていることは理想であると思う。しかし、互いの交流等は希薄なような感じを受けた。せっかくの複合施設ということもあり、今後は相互交流が必要であると思われる。また、総合窓口機能をより充実させる必要も感じた。将来的には、総合事務所も指定管理者制度の導入を行っていく予定とのことであるので、今後に期待したい。ハード面は相当充実したものになっているので、これからはソフト面の整備・充実が課題だと思う。

当市においても総合福祉会館建設の議論が活発に行われているが、ハード面の充実以上にソフト面の充実が必要であることを再認識した。

◎山形市 人口：251,757人、面積：381.58 km²（平成17年4月1日現在）

1 銅町デイサービスセンター

山形市では従来から通所系サービスの利用意向が高く、年々利用者が増加しており、高齢者保健福祉計画の一環として平成14年10月に開設をした。

この施設の特色としては、施設内に地域交流スペースを設置しており、また保育園、児童遊園を隣接していることから、広く地域や子供たちとの交流が可能であることが挙げられる。施設はオール電化となっており、夜間電力による給湯システムを採用している。そして、市営住宅と合築されたことにより、住宅内に設置された高齢者世話付住宅（シルバーハウジング）に対し、生活援助員が迅速に対応することが可能となっている。

シルバーハウジングは、生活援助員の派遣事業により毎日の安否確認、生活相談、家事援助などを実施し、入所者の生活面、健康面の不安に対応することにより、安心を確保する事業であると思う。

デイサービスセンターと市営住宅（シルバーハウジング）が合築されたということが、これからの介護予防の面においてモデル事業になるのではと感じた。当市では特別養護老人ホームに隣接している施設が多いが、今後、市営住宅の建設が計画されることがあれば、このアイデアを取り入れることを検討してみてもとの感想を持った。

2 山形市保健センター

健康に関する正しい知識や情報を提供する「健康の情報発信基地」及び健康づくり実践活動を積極的に支援する「保健サービス」の拠点として、平成13年1月にオープンした。平成8年に自治省の「新都心情報拠点整備事業」に選定され、その一環としてJR山形駅前前に建設された地上24階建てビルの1階から5階までを利用した保健センターである。

施設内は1次予防を重視した健康講座や健康づくりに関する情報提供、ボランティア団体の活動の場や母子保健、成人保健など対人保健サービスを提供している。16年度は保健センター主催事業として、健康づくり推進事業などに約11万5千人が参加した。利便性を高めるため土・日曜日にも事業実施した結果がこれだけの参加者を生んだ要因と考える。また展示コーナーへは同じ建物内にある高校の生徒が多く利用しているとのことで、若い世代から保健に関心を持ってもらうことは将来につながっていくのではないかと思う。今後は立地条件をより生かした事業を展開すればより効果が上がるのではないかと感じた。学生への健康意識などの啓発は当市においても参考になると思う。保健センターのみならず、市民が多く集まる場所での展示・PR活動は必要だとあらためて感じた。

◎東根市 人口：45,988人、面積：207.17 km²（平成17年4月1日現在）

1 東根市総合保健福祉施設

東根市総合保健福祉施設（さくらんぼタントクルセンター）は、子供たちから高齢者まで世代を超えた人々がたくさん訪れる「生き生きと生きる」ための交流の場として、子育て支援、保健福祉などの地域福祉の活動拠点を目的とした複合施設である。建設までの経緯は、平成11年に東根市福祉のまち整備促進委員会より総合保健福祉センターの建設要望書が提出され、12年から14年にかけて一般公募を含む委員22名で市民検討委員会が10回開催され、15年に建設着手し、本年4月にオープンした。構造規模は鉄筋コンクリート造、延べ床面積8,572m²、総事業費は約33億4千万円である。

施設の特徴は、複合施設ということもあり、子育て支援エリア、保健エリア、医療エリア、福祉エリアなど6つのエリアで構成されている。また、オール電化方式や太陽光発電設備を取り入れた環境に配慮した省エネルギー構造でもある。

運営については施設全体を市が管理し、市民への開放部分と子育て支援センター（施設コーディネーター事業、子育て支援センター事業）についてはNPOに運営を委託しており、NPOと行政が協同で施設の運営に当たっている。

今後は子育て支援ネットワークの推進、健康生きがいづくりの推進など、市民と行政による協働のまちづくり活動及び情報発信の拠点として市民が交流し支えあうことで安心と生きがいが見られると期待されている。子育て支援エリアにおいて保育所、子育て支援センター、プレイホールなどが併設され充実した内容と機能を備えているところからも感じとれる。また、2階の窓から併設されている保育所の様子を見ることができ、子供たちの授業や遊んでいる姿をよく見ることができるので、高齢者や訪れてくる人たちに安らぎを与えるのではないかと思う。医療エリアに休日診療所を設けたことは画期的であると同時に、より住民が安心を感じることができる施設になるであろうと感じた。

老年人口増加率が高く、年少人口が減少するという少子高齢化が著しく進んでいる東根市はこの施設のオープンにより少子化対策への意気込みを感じ取れた。今後はイベント企画等の充実とともに広報などによるPR活動により、さらなる利用促進を図っていく必要があるのではないかと思う。

当市にはない施設だが、母子保育の充実は少子化対策の有効手段と考えるので、当市においては今後公共空き施設などを利用し、ハード面では補えない点をソフトの充実という形で具体化させていくことができるのではないかと感じた。